

KA教育3D主催 『第5回情報交換会』開催レポート

ダイジェスト版

講演、実践報告と内容を拡充し 45 名が参加

有意義に情報交換が行われる

2007 年 6 月 23 日（土）、東京都千代田区九段にあるアルカディア市ヶ谷（私学会館）にて、第 5 回目となる KA 教育 3 D 主催「情報交換会」が開催された。各学校から多くの教員が参加。中には複数名で参加する学校もあり、今回の参加者は 45 名のぼり、過去の開催の中で最多の参加人数となった。

今回、第 1 部の研究会の中で、杏林大学外国語学部教授の金田一秀穂氏による講演が行われた。講演テーマは「国語力・言語能力・コミュニケーション能力」について。現代におけるコミュニケーション能力の実情など、同氏の研究、体験を通したさまざまな角度からの考察に熱心に耳を傾ける参加者が多く見られた。特に、昨今の学生に見るコミュニケーション能力についての見解は、実際に学校現場において生徒と触れ合う機会の多い教員各氏にとって、現代におけるコミュニケーション能力の方向性については、実に参考になる内容であったため、メモをとりながら耳を傾ける教員が目立ったほどであった。

また、講演の後の実践報告会では、片倉敦順天中学高等学校教頭の進行のもと、

「各学校における教育プログラムの効果的な活用」とのテーマに沿って、さまざまな意見交換の場が持たれた。マイクを参加者に順次回しながら、それぞれの教育現場の実情、3 D 教育プログラムの活用法、課題など忌憚ない意見が飛び出す中、参考にしたい他校の取り組みなどが聞けるため、充実した情報交換会となった。



実践報告会では各学校における教育プログラムの実施状況について報告が行われた。

今回の情報交換会で行われた金田一秀穂教授による講演の様子。

KA教育3D会長挨拶 片倉 敦 順天中学高等学校教頭

生徒と教員の双方にメリットある3D教育プログラムの拡大に期待

この情報交換会はKA教育3D教育プログラムを皆さんで導入し、教育しながらより良いものにしていこうという発想の趣旨の会であります。その意味からも今日は、金田一秀穂先生をお迎えしての講演で「国語力・言語能力・コミュニケーション能力」についてのお話を伺った後に、先生方の実践的発表を通して、是非、得るものを持って学校へ帰っていただければと思います。

本校がこの教育プログラムを導入した理由は、まず一つには、今の社会で生徒一人ひとりがコミュニケーション能力をつけていかないとけないということがあります。

“生きる力”と言われていますが、言葉だけが一人歩きしている感があり、一体それは何なのか、具体的にはどうすればよいのかがまだまだわかっていない状況があります。

そうかと思えば、今度は“ゆり戻し”とも言われ、能力、学力がやはり大事だと言われるなど、世の中の変化が存在します。いずれにしても、まず世の中に出て大事なことは、人とのコミュニケーションがしっかり取れるということだと思います。人の意見がしっかり聞ける、自分の意見をしっかりと伝えることです。日本人にとっては非常に不慣れなところもありますので、そこをまずきちっとできる生徒、そういう大人にしていかなければならないと思います。

もう一点、教師が生徒とのコミュニケーションをいかにとるか、これも大事なことです。今、生徒が変わってきています。そういう生徒に対して、私たち大人がどういうアプローチでコミュニケーションをとっていくのか、こういった更正的エンカウンター的な手法で生徒の心を直に見てとって、そして大人の立場からいろいろな話ができるようになっていかなければ担任教育も難しくなってきたといえるでしょう。

最近よくダイレクトメールで教員向けのカウンセリングや研修などの案内が届きます。そういった部分は実はグループコミュニケーションを行うことで取得できると私どもは確信しております。そういう意味ではこの教育プログラムは生徒のためにもなりますし、私たち教師のためにもなるものと言えます。その意味からも是非多くの学校でこのプログラムを導入していただければと思いますし、この会が益々広がっていくことを祈念しております。

本日はありがとうございました。



講演 杏林大学 外国語学部 金田一秀穂教授

『国語力・言語能力・コミュニケーション能力』(内容要旨)

◆コミュニケーション能力は言語能力だけでなく 対人間関係・対社会関係能力を含む

会長挨拶に続き、杏林大学外国語学部の金田一秀穂教授による講演が行われた。講演テーマは「国語力・言語能力・コミュニケーション能力」。

金田一教授の研究、体験から考察された国語力、言語能力、コミュニケーション能力について様々な角度からの話がされ、来場者は真剣に耳を傾け、時にはユーモアを交えた話に笑い声も起こるなど非常に有意義な講演となった。

3D教育プログラムを実施する各学校の教員にとって、同プログラム導入の目的の一つ、コミュニケーション能力の向上の部分についての話は強く興味を持つ部分である。

金田一教授はコミュニケーション能力についてこう語る。

「これ（コミュニケーション能力）はもちろん言語能力であるのと同様に、対人間関係能力、対社会関係能力というものが組み合わさったものがコミュニケーション能力ということになると思います。

コミュニケーション能力というと、話し言葉だと思い、音声言語によるコミュニケーション能力と考えることが多いです。しかし、言語には音声言語もあれば、文字言語もあり、当然、文字による言語のコミュニケーション能力もあるということになります。

この言語能力プラス対人社会能力、つまり相手がどんなことを考えているかを考えられる能力、これらが合体したものをコミュニケーション能力と呼ぶのだと思います。」(要旨)



■プロフィール

東京都生まれ。東京都立西高等学校、上智大学文学部心理学科卒業。1983年東京外国語大学大学院博士課程修了。日本語学を専攻。その後、中国大連外語学院、コロンビア大学などで日本語を教え、ハーバード大学客員研究員を経て東南アジア諸国の日本語教師に対しての指導も行っている。

◆相手に何かを伝える時、言葉(デジタル)だけでなく アナログ的な要素が重要となる

また、参加者が感心を抱いた箇所として、“伝える”ということにおいて、言葉（デジタルの部分）だけで伝えているのではなく、実際には言葉以外の要素（アナログの部分）が存在し、このアナログ部分が“伝える”において重要となるという話があった。



「私たちが意味を聞いている、あるいは意味を理解している場合、大切なのは言葉そのものよりもアナログの部分が重要なんです。

例えば、「今日は暑いです」という言語そのものが伝えていることよりも、むしろその時の状況であったり、声の調子であったり、表情であったりといった言葉になっていないアナログの部分が実は人を動かしていると思います。」

また、金田一教授が現在多くの学生と触れ合う中で、感じる現代のコミュニケーションの特徴などについても言及。中学生、高校生を教える立場の参加者は共感を持ちながら参考になる視点を熱心に学んでいたようだ。



最後に幾つかの質疑応答があり、講演を終えた。

今回の講演は、KA教育3D主催の情報交換会としては初めての試みとなった。こうした違った角度、新たな視点からコミュニケーション能力について改めて考える場はとても貴重であり、多くの教員に示唆を与えたようであった。

実践報告

「各学校における教育プログラムの効果的な活用」

講演の後に実施された実践報告では、各学校における教育プログラムの効果的な取り組み方法や課題、今後の展望などについてコメントが出た。多くの学校からの意見を聞くことにより、客観的な視点でプログラムを分析することができ、今後の学校における運営面で参考になる実践報告となった。



Commentator NO.1 大森学園高等学校 安達 毅 先生の話(要旨)



「KA 教育にいろいろとご面倒みていただき、7年になります。非常に教育的効果があると全校で今実施しています。菊地さんには毎年、保護者会を行ってもらっているのですが、教員はなかなか菊地さんの話をじっくり聞くことができないため先日は菊地さんにお越しいただいて、教員を保護者とみなして約 30 名が参加してお話をさせていただきました。なかなか温度差があり、アクセル全快とまでいかないこれまででしたが、今後とも頑張りたいと思っています。よろしくお願いします。」

Commentator NO.2 東京学園高等学校 高野淳一 先生の話(要旨)

「本校も導入をしてからようやく3年間エゴグラムで育った生徒が卒業していき、また新しい流れに入ってきました。導入のいきさつですが、全校をあげて取り組める何かがないかと考えていました時に菊地先生との出会いがありまして、今に至っています。現在の進め方ですが、ロングホームルームの時間を使いまして、各担任が自分のクラスの生徒を指導しています。

グループコミュニケーションは多い時で学期に3回以上、少ない学期で2回程度という形で、年間8回～10回くらいの実施をしております。

成果といいますと、まずエゴグラム診断をやることによって、生徒の把握の深さが変わってきたというのがあります。これまでは各教員のキャラクターというのがありまして、自分のモノサシに合わない生徒というのはなかなか掴みがたい、理解しがたいというのがあったのですが、そういう生徒でも診断によって、ある程度理解ができるようになったということ。それからもう一つは生徒の保護者、家庭環境にも思いが及ぶようになりました。この生徒がなんでこうなんだろう、ひょっとしたら家庭でこういう状態なんではないかというふうに、深く立体的に生徒把握ができるようになった点が大きな成果だと思います。

今後の課題について、グループコミュニケーションを進める中で、得意な教員もいればあまり得意でない教員もいます。そういう意味で教員全体のスキルを上げていく取り組み、何か研修のようなものが今後必要になってくるなど考えています。」



Commentator NO.3 台東区立御徒町台東中学校 山川幸伸 先生の話(要旨)

「菊地先生にはずっと中学校のほうへ来ていただいて、1年生についてはいつも菊地先生にお話をさせていただいて、エゴグラムを行っていただいております。

その後、保護者向けの講演等もやっていただいております。やはり、子供のエゴグラム＝親のエゴグラムになっていて、今中学校で子供たちを変えていこうとした時に、親の姿勢というものが影響が大きいです。

子供達がどういう性格なのかということと、親御さんの性格が似ています。親が自分の子供のエゴグラムを見て自分と似ていると感じていただいている部分があります。4月の最初にエゴグラムを行い、4月の末に家庭訪問をした時にそれ



を見せながら、話をしています。そこで学校と共に家庭での協力をお願いします。夏休みの三者面談でその変化、家庭での取り組みなどを聞きますが、その話がしやすいのはエゴグラムのおかげだと思います。親子で変わっていくきっかけになっています。プログラムの授業は道德の一つとして行っています。

その中でコミュニケーションのとり方が段々変わってきているのを1年から2年、2年から3年と感じています。このまま続けていくことで、子どもたちにも良い影響があると思っていますので、これからもよろしくお願いします。」

Commentator NO.4 長野県立諏訪実業高等学校 沖村啓次 先生の話(要旨)



「私は今年初めてここへ参加させていただきました。導入の経過は平成 15 年に学科の再編がありまして、その時にコミュニケーション能力を高めていくにはどんな方法があるかということで、個別に菊地先生とお付き合いさせていただいていた先生もいましたので、その年から導入させていただいて今年で5年目になります。

私もまだこの学校へ来て2年目なもので、実際のところが良く分かっていないところもあり、当時残っていた先生も今 12 名しか残っておらず、その当時を知る由がないのですが、現在の問題点としては、エゴグラムに対して教職員の中でまだまだ賛同を得られない教員もいまして、学校全体としての取り組みにはなっていますが、なかなか上手くいってない面もあります。学習指導のほうで出す年間のホームルーム計画と学年、クラス毎に出すホームルーム計画がズレていることがあり、グループコミュニケーションの計画を立てても実行に移せていないケースがかなり出てきてしまっています。

成果としては、非常に熱心に取り組んでいる教員もいまして、そのクラスは非常にクラス経営が上手くいっているようです。まだまだこれからというところですが、今後ともよろしくお願い致します。」

Commentator NO.5 駒場学園高等学校 鵜田克彦 先生の話(要旨)

「私どもの学校で導入に至った経緯というのは、進学実績の向上という面もあるのですが、それとはまた別に教員の閉塞感を打破したいということもありました。ホームルーム経営において、努力している教員の一助になれば、そしてまた、頑張っている人と頑張っていない人が同じ土壌で見られているのはどうなんだろうか、と頑張るきっかけにもなればと導入しました。



具体的に診断結果が上がれば、奮起の材料にもなりますし、上がらなければどうしてだろうと考えていくきっかけになればと思いました。今、導入してからちょうど3年経ちまして、この春に卒業した生徒達の資料を別紙でお手元にハイエゴ、ローエゴの形で出させていただきました。入学した当初の生徒たちが卒業していくちょっと前の段階では、非常に数字的には上がっていると思います。

ただ、私たち教員としては、これが本当にそうなのかという実感を得られるまでには至っていないというのが正直なところです。確かにこの数値は良くなっていますが、個々の生徒の分析をまだしていないので、それについてはもう少し検討をしていきたいと思っています。この数字が上がったからなのかどうか分からないのですが、実は大学進学の実績で、大学進学者の中の推薦に占める割合が急激に上がっています。

これはコミュニケーション能力があるからAOとか推薦で行きたいと思ったのか、安易に早く決めたいという生徒が増えている昨今の現状なのかはなんともいえないのですが、この春卒業した生徒の73%が推薦AOです。前年度より9%アップの数字です。この辺をどういう風に考えていけばよいのかまた分析を続けていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。

Commentator NO.6 自由ヶ丘学園高等学校 笠間陽弘 先生の話(要旨)

「今日は皆様のお手元に資料が届いているかと思いますが、そちらを見ていただければと思いますが、本校では総合的な学習の時間が15年度から導入されたところから、学校の特色ある授業を一つ作ろうということで、私どもで試行錯誤しながら1時間の授業の計画を立ててきました。その中で、3年間を通してどのように生徒達を育てるか、学校の特色を出すかと考えていた中で、ちょうど菊地さんと知り合いまして、教育プログラムをご紹介いただきました。教育プログラムと私どもで考えたものをどのように合わせて授業の計画を立てていくかということで、ここ3、4年試行錯誤した結果、なんとか形になり軌道に乗り始めた段階です。



そのため、これをやったことでこんな結果を出ました、こういう生徒が育ちましたというところまでまだ至らないというのが本音ではあります。見ていただきますと、1年生、2年生、3年生と年間の授業計画、それから授業風景の写真と、毎回少し生徒達にマイチャレンジなどの意識付けをするために一番後ろに評価

表ということで作っています。

全員必ず授業のときに持って来させ、そこで毎回チェックをしています。少し教育プログラムを崩して、自分たちがやりやすいように勝手に使わせていただいております、菊地さんには申し訳ないなと思っていますが、オリジナリティのある形に変えて利用させていただいている現状です。これからどのような形で生徒が育っていくのかというデータを取って、今後この場でご紹介ができればと思っています。今後ともよろしくお願い致します。」

Commentator NO.7 小松原高等学校 奈良井洋介 先生の話(要旨)



「今回、メインの三島が仕事の都合で代わりに新人の私が来させていただきました。情報交換会ですが、あまり情報を持たずにやって来ました。一応知っている限りのことをお伝えします。本校では、今年度から全学年、全クラスで実施しております。当初は、進学選抜と進学クラスのみの実施でありましたが、生徒指導の面でいうと、総合や工業系の生徒のほうが必要があると感じまして、全体で取り組むことにしました。

実施の時間はロングホームルームの時間を使っております。ですが年間8～10回をこなす中で、ロングホームの時間では足らず、定期試験後や終業式の後など、実施日にバラつきが出ています。課題としては、まだ教員間の取り組み方に差があり、十分に活用されていないという実感があります。今回の研修で多くのことを学んで帰りたいと思います。よろしくお願いします。」

Commentator NO.8 湘南工科大学附属高等学校 苗川博史 先生の話(要旨)



「実は、昨年来お誘いを受けていまして、年度末にクラスですが、トライアルで35人の生徒にエゴグラムを実施しまして、今まで経験則としてやっていたものが、はっきりしたデータで出たことはなるほどと説得力がありました。実は今の校長が、生徒の育てる観点からいろいろな手法があってもいいと言っています。

こういうエゴグラムを取り入れて、まず生徒を把握するというと同時に、私どもの学校も進学に特化するクラスもありますし、スポーツのクラスもあり、そういう生徒を育てるという切り口からもいろんなものがあるのではないかと校長から勧められています。実

は今年から教員体制が教頭二人制、教務部長二人制、そして運営会の中で、まず生徒を育てるためには教員間が一致していないといけないということから、鍋蓋ではなく、ネットワーク型にするような教員のトップのところでコミュニケーション能力をしっかりとやってそこが固まれば先生方の組織も一枚岩になるだろうとこの4月にエニアグラムをやってみました。エニアグラムというのは教員のほうのコミュニケーションスキルアップのプログラムなのですが、これもひょっとしたら生徒に使えるかなと非常に面白いものがありました。

その両方からの切り口があって、生徒を育てるということにすれば、このエゴグラムもこの一つの手法に使えるかなと今年トライをしてみたいなと考えているところです。それがまた出来ましたらこの交換会で報告できるかなと思います。よろしくお願いします。

Commentator NO.9 鵜沼高等学校 寺西由紀夫 先生の話(要旨)

「まだうちの学校としては導入はしておりません。以前女子校で、共学になって今年3月に初めて卒業生を出したところです。やはり女子校から男子を受け入れるというときに、職員の中でも生徒に対してどう接していくかというところでかなり迷ったり、いろんな生活指導関連の先生を呼んで話を聞いたりしていきました。私もその最初の一期生の担任として3年間見てきまして、その中で最近の高校の傾向で、なんでこんなに心を病んでしまっている生徒が多いのかというところ、うつ病ですとかボーダーのようになりかなりの率で心が病んでしまっている生徒が多いです。

私のクラスでも3名、1年で1名、2年で1名、3年で1名と、形の上では転校という形ですが、退学をしております。その時たまたまこちらのお話がありまして、対人関係で潰れていく、今、携帯も含めて人の外部から振り回されている状況があります。私どもはそこを掴めない為、そこに対してエゴグラムが使えるんじゃないかと思っております。

私は学習指導ですとか、入試、進学の方の進路指導の委員をやっておりまして、校長、教頭、各委員会などで資料を見せたりして働きかけてはいるのですが、まだ実践には至っておりません。

何とかどこかで学校としてとっかかりを作って何かを見てもらえればと思い、今日は実際にいろんな先生方とお会いできるということで喜んで来させていただきました。うちの学校でもなんとか導入できればと思っております。よろしくお願いします。」



Commentator NO.10 淑徳学園中学・高等学校 植松 正先生の話(要旨)



「今回初めて参加させていただきました。私どもの学園は文京区の小石川にございます創立 114 年になる仏教系の女子校でございます。平成 20 年度からは校名変更しまして、淑徳 S C 中等部、高等部ということで、組織、カリキュラムを一新して再スタートする学校でございます。

教育プログラムについては今年からの導入です。昨年、高校 1 年生でトライアルをやらせていただきまして、エゴグラム診断のコメントが的確でよくあたっているとの声が教員間で出てきて、それでは中学と高校 1 年でもやってみようという今年からやらせていただいています。小さな学校なので、一人ひとりの生徒を見ていくということで、日々指導をし

ていますが、その教員間の印象とエゴグラムの診断結果が非常にリンクし、共感が持てるということで非常に驚いているところです。

今年からの実施のため、成果についてはこれからじっくり見ていくところですが、面談などでは非常に役に立っていますし、私のクラスの生徒の様子を見ますと、自分の性格を客観的に見ることで非常にいい機会になっているようです。ということで中学のほうでは、グループコミュニケーションなどは今後やって、さらにエゴグラム診断とやっていくようです。高校 1 年生に関しては、4 月のオリエンテーション合宿で実施をさせていただきまして、また、秋にエゴグラム診断をやる予定になっています。後、私は国語科の教員なのですが、個人的には論理力を上げるようなマイクロディベートなどのプログラムに非常に興味がありますので、そのへんをこれから勉強させていただけたらと思っております。よろしくお願いします。」

Commentator NO.11 トキワ松学園中学校・高等学校 中山正秀先生の話(要旨)

「本校は平成 15 年からこちらのプログラムを全校的に取りいれさせていただいております。どちらかといいますと、悩んでいることや難しい点はそれぞれの学校の先生方とそんなに変わらないと思います。

ただ、先生方の中に、非常にこれをきちんとこなしている先生からいろいろなものを吸収できたりという少しずつ進んでいる形はあります。今学校の中では生活指導部の中にこのエゴグラムの係を置くようにしまして、常日頃の生徒達のホームルームなどでのいろいろな生活指導上のことを考えさせていこうということで、関連のカリキュラムを中心に入れています。その他にも進路のほうからも、こういうことをやって面接などの対応にしていこうという練習にしようという形で、部署

の先生方のほうにそれぞれこのデータをお渡しして「こういうものを発信したいんですが、よいですか」ということで、進路指導部、生活指導部のそれぞれから発信する形でやっております。

でも実際にはまだ先生方に活用していただくという形でのスタートしているので、これを必ずいつまでにやってくださいというのをはっきりと区切っていないために、やり切れないところが出てきてしまっていて、何とか今夏休み前には生活指導のこれに関してはやってくださいとお願いして、非常に少ない数ですが、全員にやってもらおうと試みています。

あと一点、本校の校長のほうから最近出ているのは、性教育を各担任がやるようにということになりました。それをそのまま発信すると先生方はパニックに陥ります。特に若い男の先生の場合、いきなり性教育をやれと言われると、教室の中で一体何から進めればいいのかという形になってしまいます。そこでまずその第一段階として、こちらのほうで例えば、中学生の男女交際を考えるというものから徐々に生徒とのコミュニケーションをとりながら、そういう話に入れるように徐々にしていきたいと思いますこのプログラムを使いながら先生方に勧めていこうと考えております。

今回は今年のプログラムの中にそっとそれを入れてありまして、先生方からどんな反応があるかこれから楽しみです、そういった形で使っている状況です。まだまだこれからという状態ですので、先生方のご意見もいろいろいただきたいと思います。よろしくお願いします。」



Commentator NO.12 順天中学校・高等学校 片倉 敦先生の話(要旨)



「本校では一番最初に取り入れさせていただいたんです。それは何故かという本校でその時にちょうど学校改革を進めている時でした。そこで何が足りないのか、どういうふうに改革していったらよいのかと考えたときに、やはりこのコミュニケーション能力をしっかりと身につけることが生徒たちにとって必要だろうと考えました。社会に出てから活躍するためにもこれが必要になると考えたのが第一でした。それからもう一つ大事なことは、自己改革、自分のエゴグラム診断をもとにして、プラン、ドゥ、シーという形でマイチャレンジを通して自己改革をしていく、向上心を

持って行く、そしてエゴグラムの状況が良くなって卒業させていくことが一つの目標でした。

そのための手段としてグループコミュニケーションも大切にしていました。実は本校は進学状況も良くなってきていまして、その進学状況の伸び率とこのエゴグラムのハイエゴの伸び率がリンクしていまして、そういう面での進学とエゴグラム及びグループコミュニケーションを結びつけるということも一つにはあります。それともう一つは、生徒と先生方のコミュニケーションも大事にしておりまして、これが上手くできないと今は担任業務が非常に難しくなっているというのが現実なんです。

やはり、このグループコミュニケーションが苦手の人や抵抗勢力になっている先生というのはどうも教室の生徒との関係も上手くいってないんじゃないかなということもありまして、やはりこれは全面的にやっていこうということでやっております。ですから中等部では、文字によるコミュニケーションといいますか、このプラン、ドゥ、シーのマイチャレンジを一步進めまして、「J ノート」というのを作りまして、生徒と毎日、交換日記のような形でコミュニケーションをとっております。その発信のもとになっているのが、3Dの教育プログラムからスタートしているというのは間違いないと思います。

とにかく、先生方も何でもチャレンジしてやってみることで結果は出てくるものだなと思います。大変なことではありますが、少しずつやっております。先生方のいい成果をぜひまた見て、本校も追随をしていきたいと思います。本日はありがとうございました。」

Commentator NO.13 京華中学・高等学校 樋口 元先生の話(要旨)



「私どもでは高校2年生と3年生を特進クラス、進学クラスとコース分けをして、初めての高校3年生が今おります。特進コース、進学コースに分けた段階からカリキュラムの中で進学コースの中には週1時間、このプログラムをやる時間を設ける形をとらせてもらっています。

特進の子供たちと比べると勉強、進学に対するモチベーションもいくらか低いということもありますので、そのモチベーションをきちんとキープしていきたいということが一つあります。それからAO入試、推薦入試というところで対策を立てていきたいと思っております。国語の教師の我々のところに、いきなり

3年生になってから小論文お願いと来られても、何もネタもなければ、文章力もなかったり、それこそ音声コミュニケーションもなかなかままならず、面接試験も無理ということではAOで受かるのも難しいということもあり、それを担任の

先生方に少し基礎固めのところで2年生からお手伝いいただきたいという気持ちがありました。

それからもう一つは進学面で、男子校のためどうしても精神的にまだ幼い、特に中学から6年間男子の中で育ってくると精神的に幼いなという感じがあります。ぜひ精神的に少しでも成長する助けとして、エゴグラムとグループコミュニケーションがセットになっているのは非常に有難いという意味合いがあって採用させていただいています。ただ、時間の関係で中学の3年生までと高校1年生はロングホームルームの中で時間があったらやってくださいとお願いをしておりますので、年間でできる回数は非常に少なくなっています。一つ進歩なのは、授業参観、公開授業の中で、グループコミュニケーションの授業を行っておりまして、教員の姿勢などに変化が起きていることだと思います。」

Commentator NO.14 KI プレス代表取締役 上妻英夫先生の話(要旨)

「今日の金田一先生の講演を聞きまして、非常にプラス思考の話し方だなと思いました。その中でも特に感銘を受けたのは、言葉の問題以上にプラス思考で全面的に子供を受け入れていい所を伸ばしていけばいいじゃないかという話がありましたが、教育の原点はそういうことかなと感動しながら聞いていました。

今、皆さんご存知のように「鈍感力」という本が売れています。もう一つ「適当論」という本も売れています。ここに共通しているものは何があるのかなと見ましたら、昔は鋭さが受けた時代です。今は鋭いと潰れてしまうということです。今一番教育でネックになっているのは、理想的なことをいくら掲げて打ち込んでも潰れてしまうことがあるという面では教育の難しさがあると思います。

私の身内が学校の校長をしています、その子供を見ているが、思うようにはいかないですね。何が言いたいかというと、教育の現場はもっと大変なんで、できれば「適当論」の見出しを見てみてください。そこには、いいことが書いてあります。一つだけ言いますと、身近に自分の話に乗ってくれる人を作ることだと、そしてその話に乗る強さが必要だと言っています。身近に「いいんじゃない」と言ってくれる適当な人を見つけることがいいということです。私も企業の社長とたくさん会いましたが、伸びている会社の社長は、立派な人ではなく、身近にそう言ってくれる人がいる人です。冷静な発言よりも、適当に「いいんじゃない」と言ってくれる人を探したほうがいいと思います。

ですからすごくなくても生徒にも「お前はすごい」と言ったほうがいいんです。これが教育だと私は思います。そういう言葉が大事だなと思っています。」



懇親会



懇親会場にて撮影した参加者全員での記念撮影



今回初めて参加された先生など、多くの先生方同士が知り合う機会となり、名刺を交換する場面がここあそこでと見受けられました。

出
来
る
・
大
丈
夫
・
大
成
功

KA教育3D研究会
2007. 6.23 KA教育3D第5回情報交換会

株式会社KA教育
〒173-0012
東京都板橋区大和町12-12
03-6784-7675